

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第36回 言動を一致させる

リーダーシップの根本には責任があります。言ったことを行動で示すことこそ責任を持つということであり部下からの信頼につながります。

言っていることと、やっていることが違うというのは、上司として部下に最も信頼されないパターンです。どんなに素晴らしいことを

言っているとしても、「あの課長は、言っていることと、やっていることが全然違うからなあ」「どうせ、口だけだろう」と思われているようでは、誰もついては

こないでしょう。どんなプロジェクトの人でも、言行を一致させることは大切ですが、部下からの信頼を得る必要がある上司であればなおさらです。

「生き残りのために、徹底的にコストを削減していく」と言っている上司自らが、接待などで大金を使っていたら、部下たちはどう思うでしょうか。自分たちだけが、経費削減で不自由な思いをしていると感じて、モチベーションは低下してしまいませんか。

しろい話があります。ある二つの会社があって、一方の社長は「お客さまと従業員を大切にすると宣言して経営していたのですが、もう一方の社長は「従業員に株を持たせるなんてもったいない。いい思いをしたかったら、従業員も自分で会社をつくればいいんだよ」と言っていました。

普通を考えれば、前者の社長の言っていることのほうが正しく、従業員からの信頼も得られるように思えます。ところが、前者の社長は言うことは立派でも、実際には自分の利益しか考えていない経営者だったのです。そのため、前者の会社はつぶれてしまい、後者

の会社が残ったのでした。言っている内容が正しいかどうかは別として、リーダーというのは言行が一致していることが、非常に大切なことです。リーダーシップの根本にあるのは、「責任を持つこと」にほかなりません。だからこそ、自分の言ったことには、責任を持つのは当然のことなのです。

リーダーシップの根本 自分の言葉への責任

言行一致に関して、おも

あなたも、自分の言葉に責任を持っていますか。どんなに立派なことを言っても、行動が伴わなければ、部下たちはシラけてしまいます。もう一度、冷静に自分の行動を振り返ってみてはいかがでしょう。か。

『上司のルール』より転載

